平成２８年度　北海道釧路湖陵高等学校定時制　年度末学校評価

【A:充分であった…５点　B：概ね充分であった…４点　C：今ひとつ不充分…２点　D：不充分であった…１点】

評価の観点			
教育計画	①	学校教育目標は、生徒の実態や保護者・地域の要望、今日的な課題に対応している。	4.3
	②	学校教育目標達成に向けた取り組みと評価・改善が適切に行われている。	4.3
	③	教育課程は、生徒の能力・適性・進路について多様な生徒に対応して編成されている。	4.1
運営組織	①	教職員の相互理解のもと、各学年間及び各分掌・教科との連携が行われている。	4.3
	②	校務分掌は適切に組織され、機能していた。	4.4
	③	各種委員会は、適切に機能していた。	4.3
	④	教職員の健康管理や福利厚生について配慮された職場環境であった。	4.4
	⑤	校内研修が計画的に実施され、テーマ及び運営（形態･時期等）は適切であった。	3.5
	⑥	ＰＴＡ活動が機能し、その組織や人材を活かしていた。	3.5
学習指導	①	シラバスや生徒による授業アンケートを有効活用した授業研究･授業改善が行われている。	4.1
	②	アクティブラーニングの方法や形態を工夫し、生徒の学力向上を図っている。	3.0
	③	授業中の規律指導（姿勢・遅刻･中抜け･机上の不要物･携帯等）は適切であった。	3.8
	④	生徒の学習状況を把握し、適切な観点別評価に努めている。	3.8
	⑤	欠席の多い生徒や学業不振の生徒に対して家庭連絡など適切な対応をしている。	4.4
生徒指導	①	生徒指導を全教職員の共通理解と協力により推進できた。	4.5
	②	基本的生活習慣や集団生活のきまりが身につくように指導する体制が確立されていた。	4.1
	③	いじめや問題行動の早期発見に努め、事前指導及び事後指導が適切に行われていた。	4.1
	④	地域の関係機関や、他校との連携により効果的な生徒指導を行うことができた。	4.0
	⑤	教育相談や生徒理解のための面談が適宜行われ、その結果が十分に活用されていた。	4.5
	⑥	校内外における生徒の生活実態の把握に努め、それに即応した指導ができた。	4.1
	⑦	ＳＣやＰＴとの効果的な連携が図られ、特別支援教育の体制が適切に組織され機能していた。	4.3
進路指導	①	HR 指導の中で、進路選択の学習の機会を積極的に設定するなど、進路指導計画が十分に具現化されていた。	4.4
	②	生徒・保護者との面談等を通して進路について十分な情報提供を行い、進路実現に向けた指導が適切に行われていた。	4.4
	③	生徒の進路実現に向けて模擬面接や作文等の指導が効果的に行われていた。	4.6
	④	正しい職業観を育て、自己実現に向けて努力する生徒を育成する指導が適切に行われた。	4.1
特別活動	①	生徒の自発的活動を促し、積極的な学校行事への取り組みを通して協調性と責任感のある生徒の育成に努める。	4.4
	②	ＨＲにおける集団生活の充実と向上を目指した指導がなされた。	4.1
	③	ＬＨＲを活用し、個人及び社会の一員としての在り方生き方に関する指導がなされた。	4.0
	④	部活動が教育活動の一環として機能し，活発に活動していた。	3.9
	⑤	生徒会の自主的な活動を促し、リーダーシップやチームワークを育んでいる。	4.6
健康安全	①	施設設備の定期的な点検等の維持管理は適切であった。	4.3
	②	防災教育や防犯教育を進める指導や訓練を十分に行われた。	4.1
	③	非常事態発生時の対処方法が、職員及び生徒に周知されていた。	4.0
	④	健康安全のための計画的･継続的な指導が十分になされていた。	4.1
	⑤	清掃活動等を通して生徒の環境美化に対する意識を高める指導がなされている。	4.0